

## 第 82 回 JCBH フォーラム開催報告

1. 日 時：平成 26 年 1 月 28 日（火）16:00～17:30
2. 場 所：フォーラムミカサエコ 7 階ホール
3. テーマ：「中国の投資環境に対する認識と意思疎通  
～日本本社と中国現地出向者の意思疎通～」
4. 講 師：北京市大地法律事務所海外部  
パートナー弁護士 熊琳氏
5. 参加人数：27 社 50 名



注) 熊先生には、会報誌「日中建協 NEWS」202 号（2013 年 2・3 月号）から 207 号（2014 年 1・2 月号）まで、連載記事「実例で知る中国最新法務事情」を 1 年間にわたり 6 回ご執筆いただきました。

### 1. 第一部 中国の投資環境の特殊性 —意思疎通の重要性—

先ず、第一部として、意思疎通そのものの重要性をお話しします。中国に行けばビジネスチャンスがあると一部の皆さんは簡単に思われがちですが、実際に行き苦労を実感しない限りそう思われるのも無理もないことです。中国と日本は、一衣帯水の隣国であり、距離は近いのですが、2 つの異なる国なのです。中国人と日本人はアジアの顔型でよく似ていますが、その認識や考え方は全然違うところが多々あります。同じアジアの顔をしているから、何事も理解してくれるはずだと思うとそうではないかもしれません。中国とは国民性が異なりますので、それをしっかり理解していただいて、国が違うと認識も違うことを自覚した上で、中国事業をスタートする第一ステップとして考えてほしいと思います。

続いて私たちは日本にいれば、日本のテレビ、ニュース、新聞、雑誌、インターネット媒体などの手段でしか情報を入手できず、限られた情報源となり、実際に中国の現場に行かないと分からないことも多いでしょう。例えば、PM2.5 も日本では大変深刻な報道がされていますが、中国では、特別な時を除き、マスクをしている人はそれほど多くいらっしゃいません。少なくとも、報道されているようにほとんどの人がマスクをしていることでは全くありません。日本から出張で中国に来られた方は、週末ゴルフをされる時もマスクをする人もいますが、中国に長年滞在している駐在員や出向者の方々はマスクをしながらゴルフをする方はあまり見かけません。PM2.5 は確かに時にはひどい時もあり、外に出ると曇った空で気分がすぐれないこともあります。しかし、毎日そのような天気ではありませんし、日本より中国に多く居る私ですが、私自身健康です！

それから、中国社会とのお付き合いの中でして良いこととしてはならないこと、つまり、日本では法律違反ではないけれど中国ではタブーなことは何なのか、多くの企業はそれを詳しくマニュアル化しきれていません。それを知っていれば、日頃からしておくべきこと

が分かり、ずいぶんと気が楽になり、ストレスはたまりません。また、自分でどうしても判断しにくいところもあると思います。更に分からない場合には友人や我々弁護士に確認してもらえば大変簡単なこともあります。

次に、政府との意思疎通ですが、皆様ご承知のように今の習近平政権は商業賄賂に非常に厳しい取締りをしていますが、実は、政府の人とコミュニケーションをとるだけで商業賄賂にあたるということはありません。むしろ、皆さんには法律に違反しない範囲で、積極的にコミュニケーションをとってほしいと思います。なぜなら、政府の人間と交流すると、こちらのことを理解していただいた上で味方になってくれることが実に多いからです。それは、私がいくつかの案件を処理した際に政府の人が教えてくれたことです。具体的に言えば、日本企業の担当者はあまり挨拶に来ないことを懸念されていました。例えば、総経理の交代や中国の中秋節の時期等にも挨拶に来ないのみならず、日頃から交流があれば、上手く理解が得られ、難航すると思われる案件も効果よく良い解決方法が見つかり有利だと言われたことが度々ありました。一昔前はあまり訪ねて行くと良くないことをしているのではないかと詮索されましたが、今は昔と違って過度の心配は不要です。例えば、工商管理局の人からも、正当な要請であれば政府もできる範囲のことをし、応援することも通常の業務であるのに、あまり来ないから日本の状況も分からない、助けてあげたいが何をすればよいか分からないというのが実情です。どんどん来て下さいと言われていています。賄賂を送ることはよくないことですが、日頃のコミュニケーションをとることは非常に良いことだと思います。



この後、典型的な事例や労務管理の例などを挙げて具体的にお話をいただきました。後半は、第二部として、日本本社と中国現地出向者の意思疎通－中国事業の行き詰まりの原因打開策のノウハウとして、日本本社と現地出向者との意思疎通の難しさや本社と現地法人間における法に対する認識の差異など、また、友好的な意思疎通と機能的なサポートなどについてお話をいただきました。

講演終了後は、時間一杯まで質問者の手が上がりました。

講演の詳細については、会報誌「日中建協 NEWS」No.208号(3・4月号)に記載しています。